芽吹きの園

発見 創造 成長 挑戦 発想

成長・チャレンジ型学生シェアハウス

学生の持つ可能性

学生にとって重要な事は 4 年間、短期大学においては 2 年の中でいかに刺激し合い、成長できる場が身じかに存在しているかである。その学生生活の中で短い時間でも自分のやりたい事を表現して行く事が大切であり、それは時には自分の将来を決める分岐点にもなり得る。西北に甲山を望む自然豊かな土地で様々な活動や挑戦を生活の中で行ない、多くの刺激を受けながら学生が自分の個性の芽をだし、多くの仲間や地域の人々と育みながら花を咲かせていく成長・チャレンジ型 G 学生シェアハウスを提案する。

甲陽園の特性

甲陽園周辺には数多くの大学が点在している。周辺の大学への通学時間は 40 分ほどであり、甲陽線は 10 分に 1 本ではあるが、甲陽園は多くの学生の生活圏内に存在している。またフードデザインや芸術、グラフィック、農業などの多様な学部が見られ、シェアハウスには様々な分野の学生達が集まる。

3つの芽を出す要素

二つの学生　苗と種

このシェアハウスには、1 ヶ月からの短期居住でドミトリーに住みながらチャレンジスペースで活動を行なうグループ学生と半年間から個人の部屋を持ち自分の可能性を伸ばせるよう、個人学生がいる。個人学生は住みながら自分のしたい事や挑戦する事を探して芽を出す「種」の学生であり、グループの学生はやりたい事などがはっきりし、チャレンジをして成長しようとしている「苗」の学生である。この二つの学生がいることにより、互いの成長を促す。短期サイクルで様々なチャレンジをする学生がくることで新しい発見を見つける。

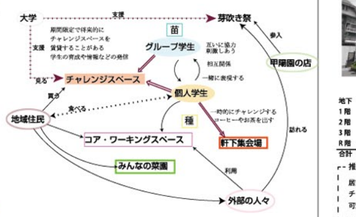
自分を表現し、刺激し合い、成長できる 「スポット」

生活の場であるシェアハウスの中で新しい発見や創造をしていくために多様な空間「スポット」をつくる。各学生がそれぞれの個性を表現できる場である事と共に他の人たちとの交流をすることのできる小さなたまり場である。多様なスポットをシェアハウス内に点在させる事により学生達はそれぞれ自分のその時の状況や気分に合わせスポットを選択できる。

地域に根付く「芽吹き祭」とイベント

学生達はシェアハウスの中で 3 ヶ月に 1 度イベントを行う。それは、シェアハウスにおいてのイベントである。テーマ等を決め、それぞれ自分のできる事を話し合いながら計画を練る。イベント時は共有空間を町へ解放すること や定期的に行う事で地元の人々にも親しみがもたれるようになる事が見込める。学生達はそれぞれ各自でもイベントを行う事ができる。それはチャレンジスペースやワーキングスペースのみならず、キッチンや小上がりの間など共有空間をも利用する。地域とつながっていく中でものづくりの依頼やまた料理教室のようなことまで学生が行っていく。地域に根付くことで甲陽園においての新しい拠点の核となる。

芽吹きの園　システム図



歴史的佇まいの継承リノベーション計画プラン

○長旅館は大正期から続く老舗であり、今の建物は築 35 年ながら外壁などがきれいに保存されている。長く親しまれたこの旅館のファサードや手入れされた庭園を残す事でその土地の場所を視覚的に記憶として継承していく。また、旅館ならではの和の要素を取り入れながら全体のデザインを行なうことで訪れる人々にやすらぎと憧れしさを与える。

	既存	改修後	居住ストック	
地下	100.04 ㎡ →	100.04 ㎡	和室ドミトリー	16.7 ㎡ ＋ 共有 8.15 ㎡ （居住人数　2~5 人）
1 階	225.33 ㎡ →	202.11 ㎡	・2 階	8.0 ㎡ ― 1 部屋
2 階	196.29 ㎡ →	164.49 ㎡		10.6 ㎡ ― 3 部屋
3 階	196.29 ㎡ →	183.29 ㎡	・3 階	10.7 ㎡ ― 1 部屋
R 階	8.29 ㎡ →	0 ㎡		11.1 ㎡ ― 2 部屋
合計	726.24 ㎡ →	649.93 ㎡ 76.31 ㎡ 減築		10.2 ㎡ ― 2 部屋
				11.5 ㎡ ― 1 部屋

推定費用予測

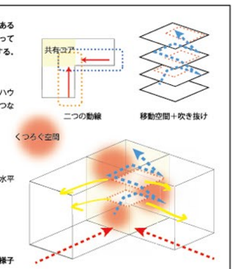
居室　事業　55.000~70.00 円　月収益　平均 80 万
チャレンジスペース＋和室ドミトリー　12.000 円　年間収益　960 万
可変和室付き　15.000 円
リノベーション費　坪単価 2 0 万　総工費　約 4400 万
5 年でリノベーション費を回収する

空間構成の再編

学生達にとっては生活の中でいかに出会いがあるかが重要である。現状の空間構成は水平方向のつながりはあるものの鉛直方向ではない。またフロアをつなぐ主要な階段や閉鎖的な空間であるためにただの移動空間となっている。そのような空間を再構築し、学生達が自然と交流ができ、自分の居場所を見つけていける空間構成にする。

二つの土間による動線と拡張性

チャレンジスペースやコア・ワーキングスペースなどをつくるにあたり、地域住民などが多くの人がシェアハウスを訪れる事が考えられる。そこで二つの通り土間をつくることで学生達との動線を分ける。二つの土間はつながっており、イベントや祭りの時には拡張し、フロア全体をつなげる。



土間の交点に学生達がくつろぐ空間（LDK）を鉛直方向に配置
吹き抜けにより、つながりを生む共有コアとなる

学生が良く集まるくつろぎの空間を土間の交点の部分に鉛直に配置し吹き抜けをつくる事でことで、今まで水平方向のつながりしかなかった空間を縦に延ばす。声や音、匂いやにぎわいが全体に広がる共有コアとなる。

主要階段を吹き抜けと一体とする
移動しながら学生同士の発見や成長をつくる移動交流コアとなる

コアの吹き抜け部に主要階段を接続させることで、学生達は生活の中で共有コアを通る。他の学生の活動の様子を見られ、刺激になることで新しい発見や交流が生まれる移動交流コアとなる。

イベント・学生同士による化学反応

地域に根付く祭りの他に学生達は自分たちで様々なイベントを行うことができる。自分で学んだ分野や趣味などが違う分野と交わる事で多様な可能性を示す。共に成長し合う事ができる。イベントはシェアハウス内の学生同士だけでなく、大学の友達または地域住民が参加していくことができる。

- 農業 ― 料理　オーガニックレストラン
- 音楽 ― 福祉　コーラス隊
- 教育 ― 外国語　学習塾
- 音楽 ― デザイン ― 教育　ピアノレッスン
- 経営 ― 芸術 ― デザイン ― 音楽　展示会
- 福祉 ― 農業　菜園療法
- デザイン ― 教育　ものづくりワークショップ
- 料理 ― 教育 ― 料理教室

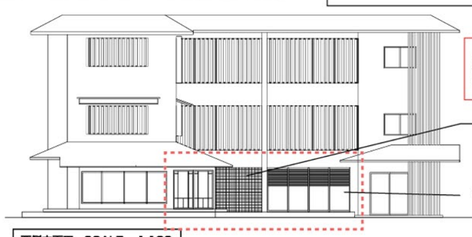
collaboration

□地元住民のくつろぎの場「軒下集会場」

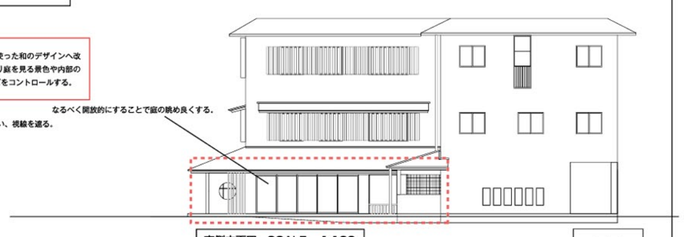
現在、市民館は近くにあるのだが会議室等が多く、甲陽園には少し休んだり、ちょっとした小話のできるような場所がない。そこで駐車する駐車場には地域住民のくつろぎの場となる小さな集会場を計画する。軒下集会場は地域住民に解放され、時には学生達のチャレンジの場ともなる。地域住民とシェアハウスの学生を結ぶきっかけをつくる。

□地域の人々と一緒に野菜を育てる「みんなの菜園」

南側の庭を菜園とし、地域の人々に貸し菜園として提供する。シェアハウス周辺はマンションなどの庭がない住居も多くある。その中で小さくても育てる事がしたい人々を対象にする。



西側立面図　SCALE　1:100



南側立面図　SCALE　1:100

場を生む多様な空間システム

■個性を見せる share shelf

居室前の棚は共有空間に開く事で自分の個性や趣味を表現することができる。学生によって居室空間の色がでる。また学生同士での貸し借り や同じ趣味のものを展示するなどの様々な使い方がみられる。

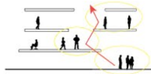
□自分の空間をレイアウトする箱

500x500 の箱を学生達が自分たちでレイアウトしスポットとなるような場所をつくっていく。学生達の個性で多様な使い方が空間に表れる。

■拡張し変化する、可変和室ドミトリー

可変的な空間を拡張できることにより、使い方の広がりに対応すると共に和室ドミトリーと個人学生の関をつくってあげる事ではじめの頃のプライバシーなどを守る。

□交流を促す，断面計画



吹き抜けは音や匂い、またにぎわいなどの雰囲気を伝えることができる。また、フロア全体の様子も抜ける。吹き抜けの中を移動しながら他の学生が活動している様子が感じられ、それがまた自分たちの刺激になる。

■地下を豊かにする二つの庭

地下のコア・ワーキングスペースに二つの庭をつくる事で地下の閉鎖的な空間に光や風の抜けを与える。解放する事で効率とも連続的につながる。

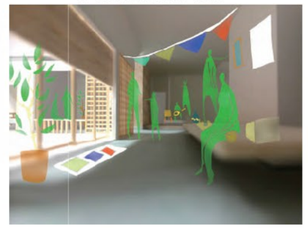
アクソメ図　SCALE　1:150

吹き抜けと階段を介して連続的につながる移動交流コア

外部と内部が一体となる開放的な三階

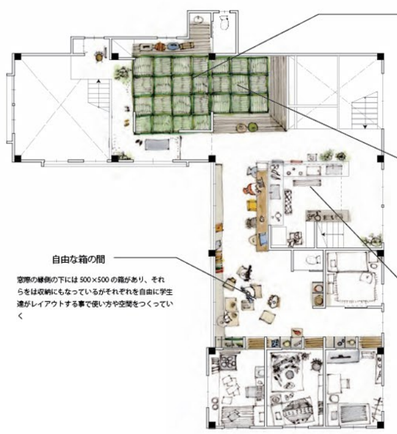
帰ってくる学生を向かえる一階の間

庭を眺めながらそれぞれ自分の場所を見つける



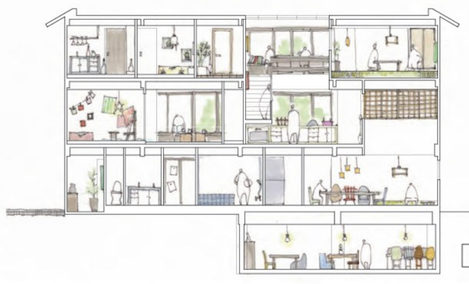
土間を活用した芽吹き祭り「音楽祭」

自分でつくったものを実際に販売する学生

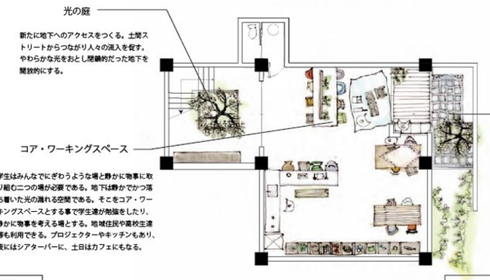


2 階平面図　SCALE　1:100

3 階平面図　SCALE　1:100



東側断面図　SCALE　1:100



地下階平面図　SCALE　1:100